

## 1. 地域連携の好事例

### ① 恵那SDGs先端研究拠点

恵那キャンパスを中心に、東濃5市との連携拠点

「ローカルSDGsの達成」・「地域循環共生圏の実現」を目指して、本学の有する人的・知的資源・ネットワークを活用することにより、科学的知見に基づいた、政策の企画立案を支援。具体的には、地球温暖化防止実行計画の立案や地域が抱える広域的課題の同時解決、さらにはコロナ後の新しい持続可能な社会システム・カーボンニュートラル（CN）、地域共生の創造に取り組む研究と教育および社会連携事業を実施。

#### 事業の例

- 1) **脱炭素先行地域**の実現と地域課題（過疎化、医療、災害、野生生物等）の同時解決。地域共生に関する研究と教育。地域のCN達成に向けたシナリオや計画づくりを支援。地域の再エネ最大限の導入計画、地域炭素マッピング、Cクレジット、地産地消、循環型経済。持続可能な**災害に強いレジリエントな地域社会**、流域治水、森林管理、見守りシステム。
- 2) withコロナ+リニア開設後の、歴史と自然を生かした**新しい中山間地域**の創造（NBS）。
- 3) **ローカルSDGs達成**、誰ひとり取り残さない社会創造に向けた課題研究、指標の可視化。
- 4) 恵那**SDGsキャンパス**のマスタープランの検討  
独立型の再生エネルギーシステム、燃料電池、水素製造、超電導送電、バイオ発電等の活用  
ゼロエミッションパイロットプラントの研究開発と実装。  
学生や地域のフィールドワーク教育拠点（SDGs学際専攻、アントレプレナー養成）

### ② 高山市SDGs未来都市

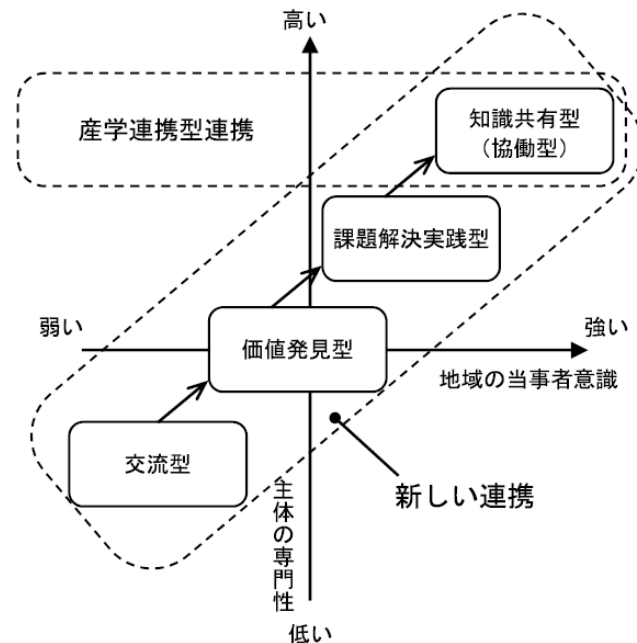
高山学、飛騨高山ブランドをキーワードに、経済、社会、環境をつなぐ、SDGsパートナーシップセンターの活動支援

### ③ 春日井市GIS研究会

空間情報プラットフォームの構築と利用のための、春日井市との協働研究の取組を10年以上続けている。

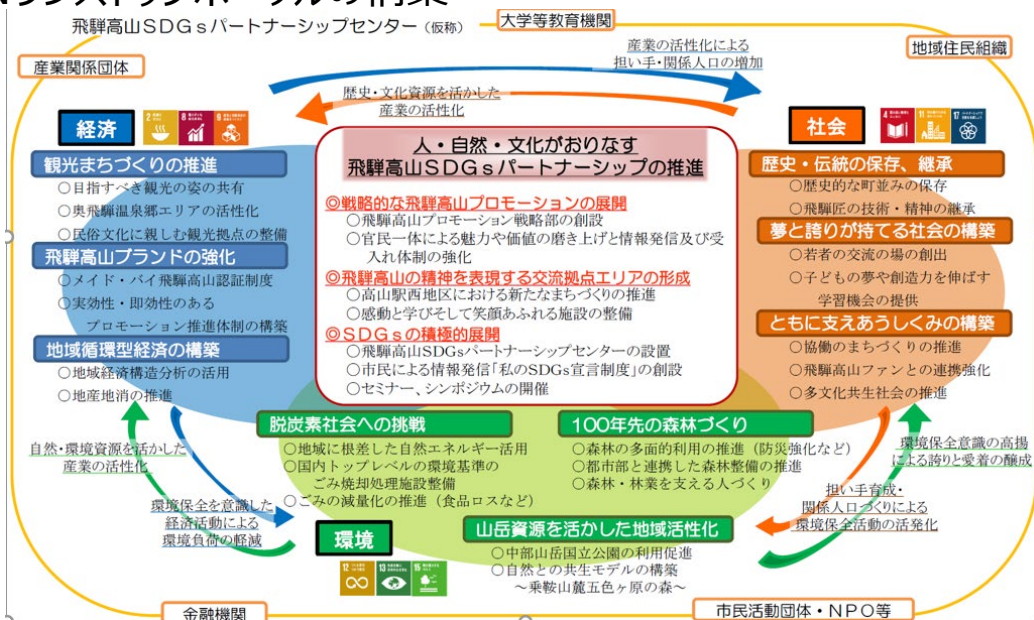
## 2. 地域連携における課題

- ・地域と大学は十分なコミュニケーションをしているか、多様なステークホルダーとのパートナーシップ（図参照）
- ・教職員や大学院生だけでなく、学生の参加をどのように促進するか  
また、その支援のための仕組みと制度設計が必要  
落下傘型の研究でなく、持続的な定着研究を行うためのソフト（副専攻、単位認定、カリキュラムなど）  
およびハード（フィールド拠点、臨床研究拠点など）
- ・研究だけでなく社会実装に重点をおく姿勢とその評価の仕組み
- ・地域の主体的で持続的な参加をどのように引き出すか
- ・全国規模のプラットフォームの構築、活動支援拠点をどうつくるか。  
事例収集、GISなどの支援情報データベースを蓄積した  
CNワンストップポータル構築



### 大学・地域連携の諸類型

中塚、小田切（2016）  
「大学地域連携の実態と課題」  
農村計画学会誌 Vol. 35, No. 1から



## 3. その他特徴的な取り組み

- ・ 持続可能エネルギー社会実現に向けた中部大学の構想「超伝導直流送電によるクリーンエネルギーハイウェイ」
- ・ 岐阜県東濃5市連絡協議会との連携
- ・ 中部圏エネルギー供給企業との地域共生社会実現に関する包括連携（検討中）
- ・ 中部圏SDGs広域プラットフォーム
- ・ RCE中部（UNU-IAS、中部ESD拠点）
- ・ 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用共同研究拠点



## 4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

- ・ 地域のCNの達成と地域課題の同時解決を達成するという総合的な視点から、コロナ後の新しい社会像の提案につながるような活動、新しい制度設計につながる議論、経験の交換、提案を期待する。

## 5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

- ・ 地域のCNを達成するための先進事例の共有とともに、CN達成に必要な共通のデータ、ツールの開発やプラットフォームの構築に貢献したい。また、地域ゼロカーボン達成のための人材育成、多様なステークホルダーのリスキングなどにも取り組む。